



第3号 ご挨拶

まもなく春節を迎えますが、月末を控え日本の本社に報告する来期の事業計画や予算策定の締切が迫っている会社も多いのではと思います。今年は28日が春節にあたり、中国では新年はここから始まります。日本も明治初期まで旧暦(太陰太陽暦)を使用していました。アジアでは、この旧暦の方が季節の移り変わり対応しています。中国ビジネスも春節を年度の考えると良いのかもしれない。今号では、私たち KPMG も参加させて頂いたダボス会議の様子もお伝えします。春節の機会に是非ご覧頂ければ幸いです。

KPMG 中国 GJP 中国総代表 高部 一郎

1. ダボス会議(ワールド・エコノミック・フォーラム年次総会)

先週、世界経済会議の年次総会(通称「ダボス会議」)が開催され、過去最高となる約3千人もの世界的に影響のあるリーダー達がスイスのダボスに集結しました。今年のダボス会議のテーマは「Responsive and Responsible Leadership(対応し責任を負う指導者)」です。

各国メディアによる KPMG へのインタビューにおいて、KPMG International チェアマンのジョン・ビーマイヤーは、世界の不確実性についてコメントしました。また、KPMG 中国チェアマンの Honson To は、ダボス会議における中国習近平主席のプレゼンスのインパクトと、世界における責任あるリーダーとしての中国の役割および 2017 年の中国企業による海外への投資見通しについてコメントしました(英語のみ)。

> [全文はこちら](#)

なお、KPMG では6年前から「WEFLIVE(<https://www.weflive.com/> 英語のみ)」を開発し、ダボス会議の参加者の声(ツイート)を集約するサイトとして好評を得ています。ダボス会議の最新情報については、是非こちらの [WEFLIVE](#) をご覧ください。

2. 中国 CEO 調査ーチャンス到来(2)

第2号の続きの後編です。中国企業の CEO 達は、今後3年間の投資重点分野トップ3として、「新製品開発」、「データ・アナリティクス能力の強化」、「技術革新(モノのインターネット(IoT)、ワイヤレス M2M(Machine to Machine)技術、インダストリアルインターネット等)」を選択しています。さらに、今後3年以内に労働力が自動化技術に取って代わられる職種についてのアンケートでは、可能性が最も高いのは IT 部門で、製造、エンジニアリング、R&D(研究開発)の各部門がそれに続くという結果が出ました。

中国企業が海外市場に参入するにあたって、外国企業と提携する事例が多く見られます。これは「一帯一路」、「国際産能合作(生産能力のグローバル協定)」、「第三市場合作(他国と第三市場を開発協力)」等の政策を通じて、中国政府が推進する国際協力の新しい枠組みと沿った動きです。

> [全文はこちら](#) (日本語訳: みずほチャイナマンスリー2016年9月号 P.17~20に掲載)

> [全文はこちら](#) (英語)

3. グローバル製造業の展望「日本の製造業の現状 - KPMG GMO 2016 調査結果分析」 から見えてくる、国内製造業企業の課題と方向性

近年、日本の製造業のプレゼンスが低下してきています。電子製品や中間財など強みがある分野もあるものの、世界の主要市場に日本製品が溢れるかつてのプレゼンスとは程遠い状況です。このような状況は、グローバル化や製品ライフサイクルの短期化が矢継ぎ早に起こる市場環境にあつて、日本企業が得意とするリニアな成長環境での成功体験から自らの戦い方の革新が遅れたがゆえに発生していると考えます。そして今後は、グローバル化やライフサイクルの短期化に加えて、製品からサービスへのシフトや新技術の台頭など、市場に大きな変動がもたらされることが見込まれています。

- 日本・海外の製造業企業はいずれも、新技術に対して期待と警戒心を抱きつつ、これに備えて強い投資意欲を示している。
- しかし、日本の製造業企業は海外の製造業企業と比較して将来へのビジョンが不明瞭であり、リーダーおよび現場のキー人材不足にまだ課題を抱えていることに加え、外部資源の活用に対して躊躇している状況である。

> [全文はこちら](#) (日本語)

Contact us お問い合わせ先

GJP China Markets: gjpmarkets.china@kpmg.com

Tel: [+86 \(21\) 2212 2247](tel:+862122122247) (日本語可)